キャラクター名: 紫虎　つぐみ

プレイヤー名:

シンドローム	エグザイル ノイマン	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	メカニックかぶれ
オプショナル	サラマンダー	年齢	14	性別	女
覚醒	渇望	衝動	妄想	初期侵食率	31 %
出自	62：貧乏	経験	C：技術畑	邂逅	93：好敵手

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	1	0	0			1
精神	3	1	3			7
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚			意志	3		調達	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：ウェブ	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				※全て《D：器物使い》適用済み
氷炎の剣	白兵	4r+4	11	7		
→侵蝕100	白兵	4r+4	11	8		
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
伸縮式警棒	
サーチレーダー	
携帯電話	
自動巡回ソフト	
カジュアル	
★コネ：UGN幹部	
★コネ：手配師	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
D：器物使い	P素手の攻撃が	N判定-2D		
技術部隊の同僚	P 連帯感	N 不安		
黒崎 剛道	P 誠意	N 敵愾心		
ノイア・フィロソフィ	P 好奇心	N 無関心		
炎堂 沙羅	P 信頼	N 不安		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	10	残り財産P：	2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
氷炎の剣	1	3	マイナー		自身			
効果：	武器を作成する（詳細は下記）							
コンセントレイト：ノイマン	2	2	メジャー			シンドローム		
効果：	C値-LV（下限7）							
コントロールソート：白兵	1	2	メジャー	武器		〈白兵〉		
効果：	能力値を【精神】に変更							
伸縮腕	1	2	メジャー	視界		〈白兵〉		
効果：	「射程：視界」に変更し、判定ダイス-[3-LV(最低0)]個							
崩れずの群れ	1	2	オート		自身	自動	1/mp	
効果：	カバーリング							
氷盾	2	3	オート		自身	自動		
効果：	ガード値+[LV*5]							
擬態の仮面	★							
効果：								
完全演技	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

紫虎　つぐみ（しこう　つぐみ）
中の人：おぼろ　　アバター：封獣ぬえ

オーヴァードの両親（イリーガル）を持つUGNチルドレン。
幼くして能力が開花したこと、"シンドロームが両親とは何の繋がりも無かった"ことを
理由にチルドレンとしてUGNに迎え入れられ、そこで《器物使い》の能力を磨き上げた。
はじめのうちは《器物使い》の特質もあって機材を使用した支援チームで活動していたが
心身の成長に伴い能力がより戦闘に適した方向へ進化。
エグザイルの擬態、ノイマンの演技をも駆使した"潜入、奇襲"が主な任務となった。

両腕に埋め込んだ警棒を熱変形させて剣を作り出し（《氷炎の剣》）、《伸縮腕》から
正確無比かつ変幻自在の攻撃を繰り出す。文字通り"一体化"した武器から繰り出される
攻撃は鋭く、またその利点は防御にも遺憾なく発揮されている。

コードネームの由来はあらゆる道具を我が物にせんと取り込む姿がさながら"るつぼ"のようであったことから。
サラマンダー能力者であることにも引っ掛けてある。
（読みが"ジャンクヤード"なのはつぐみの私室がそうであるため。
　日く「汚いものは置いてない、そう呼ばれるなりには清潔」らしいが…？）

UGNチルドレンではあるが、通信機器を通して外の世界を見て育ったためか
精神は比較的安定している。但しモノに対しての悪食は凄まじく、変わり者なのは確か。
使えそうな無機物はとりあえず取り込もうとする。そして上官に怒られる。